

区自治協議会提案事業 事業評価書(案)

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	環境美化 【事業費予算500千円】
事業目的・概要	ごみ拾いSNSを活用する等、ごみを拾う人を増やし、ごみを捨てる人の行動変容を引き起こすことで、ごみのないきれいな西区を目指す。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<ul style="list-style-type: none"> ・区民が自ら日常的にごみ拾いをすることにつながる提案を令和3年7月1日から31日まで募集したが、応募団体が現れなかったため、業務委託方式から直営方式に切り替え事業を実施。 ・10月の部会開始前の時間を活用し、西区のごみの現状を把握するために流通センター東公園、鳥原高速バス停付近の高速道路側道の現地視察を実施。 【成果】 2時間で45ℓごみ袋約90袋分のごみを拾うことができた。 ・同日の部会では、廃棄物対策課を交え、西区のごみの現状と市の環境美化の取り組みを共有。 また、ごみ拾いSNSピリカの操作方法や活用方法等について、アプリ開発元である株式会社ピリカからzoomを用いて説明を受け意見交換を実施。 ・12月部会ではごみ拾いSNSピリカを実際に部会メンバーがダウンロードし、「#(ハッシュタグ)西区をきれいに」を付けて試験的に投稿を開始。 【成果】(令和4年3月11日時点) 投稿数:31件
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</small>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に現地視察を行うことで、西区のごみの現状を知ることができた。 ・ごみ拾いSNSピリカをダウンロードすることで、ピリカの操作性などを体感することができ、ごみ拾いを気軽に楽しめることを実感した。 ・外部の方の話を聞き意見交換することで、新しい視点を事業に取り入れることができ、また、次年度事業検討の際にも柔軟に事業を計画・実施することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西区は農村部から都市部まで様々な地域特性をもった地域であるため、各地域でごみの状況は様々である。西区をごみのないきれいなまちにするために、長期間地域や地元企業等と協力しながら取り組む必要があると考える。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書(案)

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	「支え合いの大切さ」を広める標語等活用 【事業費予算 500 千円】
事業目的・概要	「支え合いの大切さ」を広める標語を用いたチラシ等による啓発を実施し、標語をこれまで以上に拡散することで、能動的に他者の困りごとに気づき行動できる人を増やす。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>①標語を用いたポスター・チラシによる啓発活動</p> <p>1事業対象者 未来の地域の支え手となりうる30歳代～40歳代の子育て世代を中心とした全世代</p> <p>2啓発方法 最優秀賞作品「支え合い 勇気を出して 声かけて」を使用したポスター・チラシを作成し、配布・掲示することで啓発を行う</p> <p>3配布・掲示先 <ポスター> 小・中学校、商業施設、社会福祉施設、医療機関、郵便局、地域団体、行政施設 約840部配布 <チラシ> 小・中学校、行政施設 約13,200部配布</p> <p>②「支え合いの大切さ」を広める標語使用基準の周知 令和2年度に作成した「支え合いの大切さ」を広める標語の使用基準について、自治会・地域コミュニティ協議会宛てに積極的な活用の依頼を行うことで、「支え合いの大切さ」の周知につながるよう努めた。 標語使用届提出状況: 6件(自治会広報紙への使用 など)</p>
事業の評価 (地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など)	<p>【地域課題の抽出方法とその解決策】 平成30年1月の大雪を機に、地域での支え合いの大切さが再認識され、普段からこのことを意識してもらうきっかけとして標語を募集した。より多くの人に「支え合いの大切さ」を意識してもらうように、この標語を用いてポスター・チラシによる啓発活動や、標語の使用基準を定め誰でも標語を用いることができる環境を整えた。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスター・チラシは「普段のあいさつやちょっとした声かけも支え合いになる」という意図を盛り込んだデザインにできた。 ・チラシを小・中学校の全児童に配布することで、親子で改めて「支え合い」について考えるきっかけとなった。 ・学校のみならず、商業施設や医療機関など多くの世代が利用する施設にポスターの掲示依頼をすることで、子育て世代以外の年代にも「支え合いの大切さ」を啓発することにつながった。 ・地域団体等に標語を活用いただくことで、より広く「支え合いの大切さ」を広めることができた。 <p>【課題】 標語の募集や啓発活動などのきっかけづくりをしているが、能動的に他者の困りごとに気づき行動できる人が増えたかどうかは測定が難しい。しかし、「支え合いの大切さ」を広める活動は継続して行う必要がある。</p>
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書(案)

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	区の魅力発信・賑わい創出 【事業費予算500千円】
事業目的・概要	住み始めて間もない子育て世代に今後も住み続けたいと思ってもらえるような西区を目指し、魅力を発信。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題の解決に取り組む団体から課題解決につながる提案を募集し、協働して取り組んだ。 【事業名】文芸の故郷ガイドブックの作成と地域への誇りと愛着の醸成 【実施団体名】越後新川まちおこしの会 【内容】文芸の人を多く輩出する地域の紹介という観点から内野・五十嵐地区を紹介するガイドブックを作成し、内野・五十嵐地区の新たな魅力を探るとともに、新たなまちおこしのきっかけとした。 ・文芸の故郷巡礼ガイドブックの作成 作成部数・・・2, 500部 配布先・・・西区自治協議会委員、地域の小中高等学校、取材協力者、講演会聴講者など ・小中学校PTA対象の『親が子に語る内野の新たな魅力と誇り』講演会は、新型コロナウイルス感染症により、事前収録した映像をオンラインで配信し、アンケートを実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・新潟西海岸の魅力再発見ツアーを実施 7月部会開始前の時間を活用し、原澤委員の提案による西区の魅力を海の視点から再発見するツアーを実施。 ・外部講師による魅力勉強会を実施 1月部会では、新潟経営大学観光経営学部観光経営学科出口教授より、「西区の魅力発信について」というテーマで講義いただき、意見交換を実施。 ・新潟国際情報大学 澤口ゼミ生による研究発表を実施 3月部会では、新潟国際情報大学国際学部3年澤口ゼミの学生による「拠点設置による地域資源の活用と地域活性化」というテーマで研究成果の発表を実施。
事業の評価	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内野・五十嵐地区から排出された文芸の人をガイドブックを通じて多くの方に知ってもらえることができた。 ・『親が子に語る内野の新たな魅力と誇り』講演会では、コロナ禍で一堂に会しての講演会はできなかったが、内野中学校で実施した講演内容を内野小PTAへ配信し、125回再生された。 ・外部講師による魅力勉強会では、他都市の魅力発信事例等を織り交ぜながら講義いただき、意見交換により理解を深めることができた。 ・次年度事業の検討の際には、今までになかった視点を取り入れながら事業を検討することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案募集事業では、自治協議会が解決したい課題と、提案団体の提案内容との間での課題認識のズレを解消することができなかった。 ・文芸の故郷については、今後も継続して内野・五十嵐地区の魅力を発信し、地域を盛り上げていく必要がある。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書(案)

西区自治協議会

区 分	内 容
テーマ・事業名	地域の担い手育成等 【事業費予算300千円】
事業目的・概要	地域の担い手不足等の解消のヒントとなる取り組みを実施する。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>1 昨年度事業の振り返り 昨年度事業で行ったリーフレット作成結果を踏まえて、地域の担い手育成についての実情はどのような状態か振り返り・分析をした。</p> <p>2 今年度および今後の方針について検討 昨年度の振り返り・分析の結果、近い将来の担い手については地域ごと様々な手法で選定に至っているという意見が多く見られた。一方で、今年度委員全体に特色ある区づくり事業として取り上げて欲しいキーワードについて調査を行ったところ、若年層の地域参加という声が多く見受けられた。 この結果を踏まえて、担い手育成について今後自治協議会としてどのように取り組んでいくべきか議論を進めた。</p>
事業の評価 (地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など)	<p>【地域課題の抽出とその解決策】 従来、多くの地域で担い手不足等に悩んでいるという声をうけ、その問題を解消するヒントとなる取り組みを実施してきた。昨年度委員アンケートを行うことで地域の実情が見えたため、それを足掛かりに取り組める事業を検討した。</p> <p>【成果と課題】 ・昨年度のアンケートを分析すると、近い将来の担い手については、各地域それぞれの手法で候補を選定できているという声が多く見られた。 ・一方で、取り上げて欲しいキーワードとして若年層の地域参加の意見が多く見られ、若年層は将来の担い手となりえることから、若者の地域参加促進は取り組む必要がある。 ・以上のことを踏まえて、若年層の参加が少ない状況については、地域により実情が異なることから、担い手育成事業として単独で行うのではなく、今後検討する各事業の中で複合的に取り入れていくこととした。</p>
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書(案)

西区自治協議会

区 分	内 容
テーマ・事業名	第9回西区アートフェスティバル 【事業費予算 1,700 千円】
事業目的・概要	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西区全体の文化風土を耕して区の良さを再確認し、愛着を持てるようにする。 ・西区でアートの表現活動に取り組んでいるアーティスト等に発表の場を提供し、幅広く区民から知ってもらう。 ・大学などと連携を深め、学術・文化豊かな西区の魅力を発信する。 <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西区自治協議会と新潟大学が共催で実施。 ・「音楽・芸能」分野の団体を対象にした発表の場として「アートフェスティバル」を実施し、音楽を通して区民の地域交流を深める。また、西区にちなんだ多様な「アート作品」展示を行う。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p><音楽・芸能団体発表> 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止</p> <p><おん×てっく～音と光のコーナー～> 令和3年10月23日(土) 13:00～17:00 黒崎市民会館 新潟大学工学部人間支援感性科学プログラムの学生がピアノ演奏や音楽作品によって、音と光が融合した空間を制作。</p> <p><アート作品展示> 令和3年10月23日(土)13:00～17:00、10月24日(日)9:00～16:00 黒崎市民会館</p> <p>【作品内容】</p> <p>①新潟大学工学部によるアート作品 ②アール・ブリュット作品 ③区内小学生の自由研究優秀作品 ④新潟国際情報大学写真部作品</p> <p><来場者延べ人数>:460人</p>
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	<p>◎アートフェスティバル 【地域課題の抽出とその解決策】 西区は、坂井輪地域・西地域・黒崎地域の3地域で構成されているが、西区が一体となった文化活動を行うため、アートの表現活動に取り組んでいる方々に発表の場を創出し、大学等と連携を深め区民の一体感の醸成を図った。</p> <p>【アンケート結果】</p> <p>◆調査方法：来場者を対象に当日アンケート配布を行い、退場時に回答。 ◆有効回答：226名(有効回答率49.1%)</p> <p>➢「おん×てっく(音と光のコーナー)」はどうだったか [とても良い…59.5%、まあまあ良い…31.1%、ふつう…8.5%、やや不満…0.9%、大いに不満…0.0%]</p> <p>➢「アート作品展示」はどうだったか [とても良い…63.5%、まあまあ良い…31.2%、ふつう…4.3%、やや不満…1.0%、大いに不満…0.0%]</p> <p>【評価(成果)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来場者から、普段接することが少ない学生との交流ができて良かったとの感想を多数いただいた。 ・コロナで発表の機会が少ない学生や障がいがある方に、発表の機会を提供でき喜んでいただくことができた。 ・学生と自治協委員が自ら企画し、そして、受付などの運営も行い、様々な作品や体験コーナーで多くの方に楽しんでいただくことができた。学生と自治協委員との交流が生まれたこともよかった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由研究優秀作品は、手を触れていいものとダメなものを分け、作品内容がより良く見えるよう工夫すれば良かった。 ・音楽・芸能団体発表はコロナのため中止としたが、コロナ禍での判断が難しい。 ・団体からは、中止となり非常に残念だったという声も聞かれたが、次回声がけができるといいのではないかと。
備考	